

授業科目	*老年看護学概論				実務家教員担当科目	○			
単位	1	履修	必修	開講年次	2	開講時期 前期			
担当教員	溝部 昌子								
授業概要	<p>老年看護の対象としての高齢者の生物学的な老化と主観的意味を理解することを主眼とし、高齢者の生活実態、環境、施策、仕組みなどの基礎的事項を学ぶ。老年看護学概論では、生物医学の科学的根拠に依拠するだけでなく、社会の変化、人々の価値観、それぞれの文化的指向により変化するもので、将来にわたって老年看護で役割を果たしうる基本的態度を養う。最終的には学生自身が老年看護における役割を見出すことを目指す。</p> <p>実務家教員として、高齢者看護・介護の実務経験のある教員が、実践における知識や理論の活用例を概説する。</p>								
授業形態	対面授業（一部オンデマンド）		授業方法	グループディスカッション、プレゼンテーション、オンデマンド授業					
学生が達成すべき行動目標									
標準的レベル	<p>老年看護の対象として高齢者を捉える視点が限られており、主観的な存在あるいは生物医学的な事実への理解が十分でない部分がある。健康障害や保健医療と暮らし、環境、習慣、制度、文化の関係性についての基礎知識があり、対象個々が豊かな生を送るための老年看護の役割と老年看護の技術との関連については理解している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 様々な資料から世界の高齢化や日本の長寿社会の現状や課題を解釈できる 2. 加齢性の心身変化が高齢者の暮らしや健康に及ぼす影響、健康課題を列挙できる 3. 高齢者を取り巻く環境、制度、支援について説明できる 4. 高齢者の権利を脅かす事柄、老年看護における倫理課題に関心を示す 5. 高齢者の安全な暮らしを支える工夫ができる 6. 既存の取り組み事例から、高齢者の健康増進、社会参加を支える方法を予測できる 7. 高齢者看護の理論の展開例を解釈できる 								
理想的レベル	<p>老年看護の対象としての高齢者を生物学的存在としてだけでなく、その考え方、行動、暮らし、他人とのかかわりなどから多面的に捉えることができる。健康障害や保健医療と暮らし、環境、習慣、制度、文化の関係性についての知識が豊富で、対象個々が豊かな生を送るための老年看護の役割を担うことを指向し、老年看護の技術を習得するための準備状態が整う。</p>								
評価方法・評価割合									
評価方法	評価割合（数値）		備考						
試験	45%								
小テスト	20%								
レポート	10%		レポート 高齢者看護の倫理課題について						
発表（口頭、プレゼンテーション）	0								
レポート外の提出物	20%		課題① 祖父母の家に潜む危険マップ（グラレコ）課題② 高齢者体験ワークシート						
その他	5%		授業への参加態度（他者の学びを妨げないこと）						

	<p>高齢者の権利、高齢者看護の倫理、高齢者虐待、Daily Ethics 担当：溝部昌子</p>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ナーシング・グラフィカ老年看護学①高齢者の健康と障害 MC メディカ出版（電子書籍）
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	<ul style="list-style-type: none"> 図書館には、高齢者に関する書籍が多数配架されていますので、興味のあるもの、読みやすいものからどんどん利用してください 高齢者、認知症、高齢社会に関する映画、ドラマ、TV 番組などの映像資料も活用して、様々な立場や意見に触れてください
課題に対するフィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 2回 Google フォームでの〇×クイズ、回答の正誤がわかります レポート及び課題 3回 それぞれ A-B-C3 段階評価で返却します
学生へのメッセージ・コメント	<p>※電子書籍を利用します、授業プリントは紙に印刷して配ります。電子書籍は、持ち運びや調べやすさにはメリットがありますが、記憶の定着が紙の資料に比べ劣ると言われています。手書きのノートまとめなど、自分なりの学修方法と併用することを強く勧めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 加齢性の心身変化を理解することが老年看護学の基盤となるため、特に看護形態機能学・疾病論は復習が必要です 老年看護学の基礎的事項については、記憶が必要です 将来にわたって対象となる高齢者との向き合い方、課題解決の方法の原則について学ぶ科目ですから、様々な情報に触れ、発想を豊かにし、発展的に学ぶ姿勢で臨みましょう

